

青春あべNEWだがしや楽校

楽描きだがしや楽校

にちじ：2011年1月15日（土）9:30~12:00

ばしょ：滝山公民館（山形市上桜田1丁目）

《はじめに》

今年（2011年）の“だがしや楽校”報告の第1号は、やっぱり“楽描きだがしや楽校”にしました。

実は筆者（山口充夫：だがしや楽校コーディネーター・山形県米沢市在住）には、ほかにも所用がありました。加えて、朝起きますと、思っていた以上に雪が積もっており、雪かきで悪戦苦闘しました。こんな時に、米沢から50kmほど離れた山形市に出掛けるとなると、気が重くなります。場合によっては、山形に着くまでに2時間以上かかるからです。

それでも、私なりに“楽描きだがしや楽校”に参加したり、取材したりして、報告したいと思うのは、なんとなくですが、大きな魅力があるからでしょう。

“楽描きだがしや楽校”は小さな集いです。でも、そこから大きな輪が広がりました。メンバーのひとり、Yyさんは「“だがしや楽校”と出会ったことで、倍以上の人たちと交流ができました」と言います。

ゆったり・まったりしながら過ぎている時間の中で、本当の意味での人と人とのつながりが生まれていったのも“楽描きだがしや楽校”の魅力です。

そして、なんと言っても特筆すべきことは、小さな集いにもかかわらず、今年で足かけ5年間も続いていることです。

そうそう、それからきょうは、当初からのメンバーで、現在は栃木県で活躍されているNさんが来られることも、きょうの“楽描きだがしや楽校”に参加する理由のひとつです。

筆者が、“楽描きだがしや楽校”の主宰者である東海林（とうかいりん）さん（以下『Rさん』と言います）とKさん（主婦）に初めてお会いしたのは、2006年の年末だったでしょうか。記憶は曖昧になってしまいましたが、確か山形の“だがしや楽校”仲間が集まったの忘年会だったと思いますが……。場所だけは憶えていて、“だがしや楽校・発祥の地”と言われる山形市の駄菓子屋“はじめや” & “みなみ公園”に程近い居酒屋さんだったと記憶しています。

初めて出会った時から何かを感じた筆者。案の定Rさんは“だがしや楽校”に感染してまもないのに、2007年1月17日横浜市で開かれた“だがしや楽校全国寄り合い2007 in 横浜”に参加し、プレゼンテーションを行っています。その時のRさんの『誰も来なかっただがしや楽校』というプレゼンテーションは“だがしや楽校”仲間では、しばらく語り草になります。

Rさんが“だがしや楽校”を始めたのは2006年9月です。きっかけは、中桜田体育振興会と青春通り商店会による合同イベント“青春通り秋祭り”の開催です。

それまでも地域の行事に関わってきたRさんは、イベントを開くにあたり、地域に根付くことを目標に、地域の人たちがコミュニケーションできる場を模索します。

前後してRさんは“だがしや楽校”の存在を知ります。その“だがしや楽校”がRさんの身近なところに存在していたことも、Rさんが“だがしや楽校”に感染するひとつの要因となります。

ちなみに、Rさんたちが住んでいる場所は、山形市の市街地でも南東側に位置します。東北芸術工科大学の近くです。青春通りは、国道13号線から東北芸術工科大学に向かう通りです。

こうして、定期的な常設のイベントとして“だがしや楽校”を開催する事にしました。

場所は青春通り商店街の一角にあるコミュニティFM放送局の“Vigo-FM”です。局舎前の駐車場でおみせを出したのです。Rさんら地域のおとうさん・おかあさんによる“だがしや楽校”は数ヶ月間続きます。

この時の“だがしや楽校”ですが、当時の筆者は取材しておりません。この時の様子を筆者が詳しく知ったのは、先程ご紹介した“だがしや楽校全国寄り合い2007 in 横浜”だったのです。その時Rさんは「誰も来なかったけど、おみせを出した者同士でのコミュニケーションができ、たくさんの得るものがありました」と報告しています。

その後、松田道雄さん（だがしや楽校発案者、現高千穂大学教授）からの紹介で、東北芸術工科大学の学生さんが加わり、2007年からは“楽描き（らくがき）だがしや楽校”として再スタートします。

第1回目の“楽描きだがしや楽校”は、2007年2月に開きました。これも残念ながら筆者は取材できませんでしたが、東北芸術工科大学の学生2名、芸工大生卒業生1名、地元のおとうさん、おかあさん5名の計8名で“だがしや楽校”の看板を描きました。Rさんからは「楽しく楽描きできました」と報告をいただきました。そして、出来上がった楽描きは“Vigo-FM”の好意で、“Vigo-FM”入口看板に設置しました。

第2回目は、2007年4月14日、滝山公民館にて開かれました。筆者が自分の目で拝見できた初めての“楽描きだがしや楽校”です。この時は、Rさんの呼び掛けに、地域のおとうちゃん、おかあちゃんが3名、学生さんが2名参加しました。この日は、松田道雄さんも駆け付けています。

“楽描きだがしや楽校”を初めて拝見した時の筆者の印象は、まさに「なんとなく」でしたが、「なんだか楽しい、なんだか良い雰囲気」という感じです。逆に言いますと「物凄く良かった」という訳でもありません。でも、なんとなく良いのです。

こうして“楽描きだがしや楽校”は、毎月1回（原則第2日曜の午前）開かれるようになりました。それが現在も続いているのです。まさに継続です。

筆者も、用事が重ならない限り、毎回のように“楽描きだがしや楽校”を見学・取材することにしました。（2007年はほとんど見学・取材できましたが、2008年以降は、ほかの用事との重なりが多くなってしまいました）

さて、当時の筆者は“楽描きだがしや楽校”の意義について、次のように伝えています。

©2007年4月29日

“楽描きだがしや楽校”は、大人も子どもも、みんなで楽しく、自由に絵を描くことで、大人同士のコミュニケーション、地域の人たちでのコミュニケーション、そして世代間でのコミュニケーションの輪を広げていこう、という活動です。ここでは、自由に絵を描くことができますので、“楽描き（らくがき）”と言います。

ある人が描いた絵に対し、人は「自分はこんな絵を描きたい」と思い、キャンパスに描きます。これが、絵を通してのコミュニケーションです。こうして、いろんな人が楽描き（らくがき）を通してコミュニケーションしていくのです。

私たちは、大人社会に入りますと、ほとんどの人が、絵を描く機会もなくなります。また、「自分は学校時代、美術は不得意だったので、絵は描けない」と思っている方がおります。しかし、それは「絵を上手に描くことが目的的教育」だったからです。しかも、描いて終わりの教育でした。

“楽描きだがしや楽校”では、点を1つ描くだけでも、線を1本描くだけでも、参加したことになるのです。そうしますと、意外に描けるのです。みんなが、本当の意味で好きなように描けるのが“楽描きだがしや楽校”です。

さて、回を重ねていった“楽描きだがしや楽校”ですが、ある回のことです。楽しいはずの“楽描きだがしや楽校”が、なんとなく微妙な雰囲気となります。「自由に描きながらコミュニケーションしましょう」というコンセプトだったのに「こう描いた方が良い」というようなセリフが聞こえたりしたからです。Rさんも振り返って「ちょっとおもしろくなかった」と言います。脇で見ていた筆者も同様に感じました。

ここでRさんは気が付きます。そして「テーマを決めることはやめて、自由に描くことができるようにしよう」と思ったのです。なぜなら、『らくがき』というのは、好き勝手に描くことができる場だからです

“楽描きだがしや楽校”は、絵を描くことが目的ではありません。絵を描きながらコミュニケーションする場が“楽描きだがしや楽校”なのです。でも、描かれた絵の中には、それぞれに人の思いが込められています。

これが、現在まで続いている要因のひとつです。

また、参加する人数にもこだわっていないことも、継続している背景のひとつです。20人近くの人が集うこともあれば、3人だけの“楽描きだがしや楽校”という回もありました。だから一見すると、「どれだけの人と人とのつながりができたのか」と思えます。しかし、いつの間にか、大きな人の輪になっていたのです。これは、毎回の参加人数からは見えないことです。

つまり、“楽描きだがしや楽校”というのは、その時に見える実際の風景からだけで物事を判断してはいけないことを、私たちに教えているのです。

人の輪の広がり、は、“楽描きだがしや楽校”として、あちこちで開かれている“だがしや楽校”へ参加したり、“YAMAGATAアーツ・ラウンド”への参加につながっています。さらには、Rさんが講演やセミナーの主催者から講師として招かれるようになりました。

そんな“青春あべNEWだがしや楽校”主催の“楽描きだがしや楽校”。今年も地道な活動が続いていくことでしょう。

2011年1月15日（土曜日）山形の天気：曇り一時小雪

雪降りだった米沢を抜け出して、2時間はかからなかったものの、ようやく山形にたどり着いたという感じです。

はじめに“楽描きだがしや楽校”のメインの場所である芸工大前公園に行ってみます。



写真の通り、雪に埋もれています。米沢よりは遥かに少ないとは言え、積雪は30cmほどありそうです。これでは“楽描きだがしや楽校”はできません。

それで、雨天や冬シーズンは、この近くにある滝山公民館にて行っています。そちらに移動しましょう。

きょうは、Rさん・Kさん・Yyさん3人だけの“楽描きだがしや楽校”です。それでも楽しいです。少ない人数だからできる会話・コミュニケーションがあります。筆者からも“だがしや楽校”に関する情報をお伝えしました。



描いてはおしゃべりし、おしゃべりしては描いていく内に、時間だけが過ぎていきます。



今年はウサギ年なのに、ネコちゃんが描かれたり、この白いモノはなんでしょう。

これが出来上がった楽描きです。“Vigo-FM” 入口看板への設置は、明日(1月16日)行います。



ここからは、場所を中桜田集会所に移し、山形“だがしや楽校”のささやかな新年会です。

“楽描きだがしや楽校”当初からのメンバーで、東北芸術工科大学OGでもあるNさんが栃木県から到着しました。久しぶりの再会です。お元気そうです。お話をお聞きしますと、仕事はちょっと大変なところもありますが、しっかりした目標を持っています。

さて、新年会ですが、食べ物はメンバーによる手作りです。手作りと言えば、杉並（東京都杉並区・すぎなみ大人塾）を思い出しますが、こちらも負けていません。皆さん気合いが入っています。



写真の中央はカレーです。市販のカレールーは使っていません。本場のインド風カレーに仕上げました。左上のご飯は電気釜で炊いたものではありません。ナベで炊きました。これぞ手作りご飯です。写真のミートソースも手作り。サラダにもたくさんの具材が入っています。

写真には写っていませんが、このほかにはクレープも手作りです。クレープの生地、生クリームもみんな手作り。薄くのばして焼いた生地の中には、生クリーム、バナナ、チョコチップなどを入れて食べます。サイコーに美味しいです。

実は、これらの料理を作る前には、腹ごしらえとして、みんなで“ひっぱりうどん”をいただきました。もちろん、これも手作りです。

“ひっぱりうどん”は、山形、それも山形市周辺の村山地方だけに見られる郷土料理、というより、うどんの食べ方です。だから、筆者も本格的に“ひっぱりうどん”を食べたのは、きょうが初めてです。ネギ、カツオ節、サバ缶、生玉子、納豆、そして辛子明太子まで、山形の人たちによると、きょうはなかなか豪華な“ひっぱりうどん”だそうです。

美味しいけど、米沢ではみられない食べ方でした。

オット、いつの間にか食べ物の話になってしまいましたが、“だがしや楽校”では「食」も大切な要素になります。

『駄菓子屋』の『菓子』とは、広い意味で食べ物を指します。松田道雄さんは「コミュニケーションの原点は“口”」と言います。口は、「話す」機能と「食べる」機能があります。それはいずれもコミュニケーションにつながる機能です。

人間の最大の楽しみは「食べる」こと、つまり「飲食」です。そこに楽しい会話が生まれ、人と人がつながっていきます。

“楽描きだがしや楽校”の皆さんがここまで意識していたのかはわかりませんが、手作りというプロセスにこだわり、みんなで楽しく飲食を共にしながら会話する風景は、“だがしや楽校”の大切な風景のひとつです。

“Smileだがしや楽校”を開いている“ボランティアサークルSmile”のメンバー・Mさんも加わり、会はさらに盛り上がります。

小さな集いの“楽描きだがしや楽校”でしたが、“だがしや楽校”の原風景を見ることができました。その原風景とは、いつまでも大切にしたい風景でもあります。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター